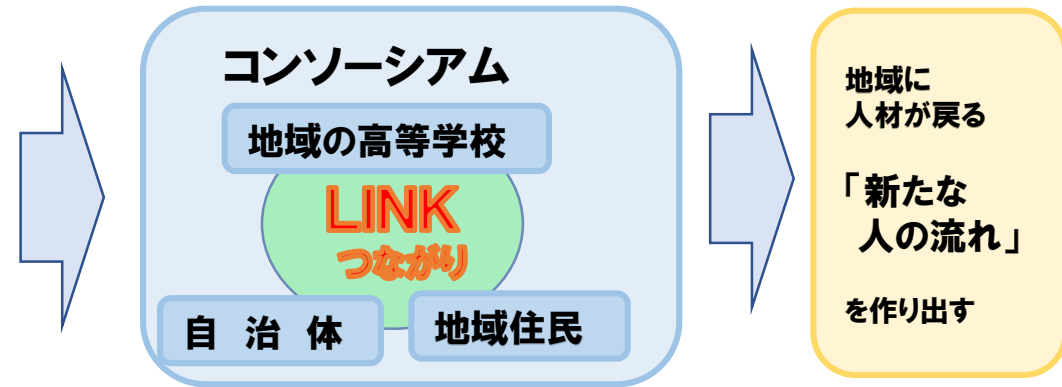


新庄・最上LINKプロジェクト

少子化・人口流出など地域の課題の解決に向けて

地域の未来を切り開く高い志と能力を持った『人財』を育成する

- ①探究心と地域の課題を解決する高い能力を持った人材
- ②郷土に対する誇りを持ち、社会や地域とつながる意欲にあふれる人材
- ③Society5.0に変容する地域社会の中でAIやデータの力を最大限活用し展開して地域を牽引していく人材



山形県教育委員会、山形県最上総合支庁、新庄・最上地域の8市町村、新庄北高校、新庄南高校、新庄神室産業高校、新庄東高校、東北芸術工科大学、最上教育事務所、一般社団法人とらいあ、地元商工会議所でコンソーシアムを構成

《令和3年度の主な目標と取組状況》

- A-a 地域理解プログラム・A-c 地域理解発展研究
 / 地域をフィールドとした系統的な探究活動
 【目標】 地域について本気で考えている大人と対等に話ができる。
 ⇒ フィールドワーク行き先の多様化、オンライン会議システム活用。
 1年成果発表会は発表動画撮影形式に変更して実施。
 「過去と比べて発想が豊か、自分ごとに」などの評価。
- A-b 「ジモト大学」プロジェクト / 最上9市町村・県提供のプログラム
 【目標】 1年次生は原則参加。企画運営側で参加する高校生の増加。
 ⇒ オンライン開催を中心に、開講講座数、参加延人数とも増加。
 高校生や、卒業した大学生が企画するプログラムも登場。
- A-e 地域系部活動の継続
 【目標】 個人研究の開始。
 ⇒ 部員5名。地域の大人に加えオンラインでインタビューする生徒も。
 地域からの依頼も増加し、多様な活動へ。
- D-a 「ふるさと探究」（1年次7月～）の開設
 【目標】 地域の題材を扱った授業の回数：100回
 ⇒ 103回実施。各教科で地域を題材にした授業や外部講師の講義も。

《成果と課題》

- A-a～c 地域をフィールドとした探究活動
 ⇒ 系統的な指導。資質・能力の検討、整理が課題。
 ジモト大学の発展は、高校生と大人双方に好影響。
- A-e 地域系部活動の継続
 ⇒ 地域“を”探究する→地域“で”探究する活動へ。
- C-a アカデミックインターンシップ
 ⇒ ジモト大学と連携して実施。
- D-a 「ふるさと探究」の開設
 ⇒ 令和4年度以降の課程でもほぼ同様の内容を継続。
 普段の授業内容を地域題材に落とし込む展開も検討。
- D-b 「Myエリア・ラーニング」の開設
 ⇒ 地域行事が中止、規模縮小のため認定はできず。
- 事業後も「LINKプロジェクト」の名称は残して地域連携を継続。